

第6学年 道徳学習指導案

平成24年10月17日(水) 第5校時

- 1 主題名 不正を許さない態度 4－(2) 公正・公平
- 2 資料名 あなたも同じ・・・ (出典 彩の国の道徳(小学校高学年)「夢にむかって」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、高学年の内容項目4－(2)「だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。」ことをねらいとしている。この内容項目は、低学年の内容項目4－(1)「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に使う。」や中学年の内容項目4－(1)「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。」ことなどに関する指導を通じて育まれるものである。そして、中学校の内容項目4－(3)「正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。」へとつながっていく。人が社会の中で協力し、助け合って人間生活を営んでいくためには、互いを大切にし、思いやる心が必要である。相手の気持ちを理解し、共感して、互いに助け合い、共に生きようとする心がなければ、よりよい社会、よりよい人間関係は築くことができない。しかし、良好な社会、人間関係を築くことを妨げてしまうのが差別や偏見である。自分の利益あるいは自己防衛のために、他者を傷つけたり、疎外したりして差別すること、さらに相手の思いを汲むことをせず偏った見方をしているのは、良好な人間関係を築くことはできない。

しかし、私心にとらわれずだれにも分け隔て無く接したり、自分の利益や自己防衛を越えて他者を思いやり、公正、公平に振る舞ったりすることは容易なことではない。いじめられている人を見たとき、それが「間違っている」と感じて、周囲の目を気にしたり自分を守ろうとしたりする気持ちが働いてしまうことは多くあり、進んで助けたり、声をかけたりすることは難しいことである。よりよい社会を実現するためには、そのような私心を超えて、よりよい社会を実現しようという心が不可欠であり、自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢をもち、力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうとする努力が重要である。そうすることによって、協力して物事に取り組んだり、互いに支え合い、助け合って生活したりすることができる。最高学年になった今、児童には自分と社会との関わり方や自分の行動についてより深く考えてもらいたいと思い、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本学級では、毎日の帰りの会で「今日のよかったこと」を発表している。学級内でだれかに助けってもらったことや、がんばっていたことを発見し、発表するというものである。児童はその際、「〇〇さんが当番を手伝ってくれました。ありがとうございました。」「〇〇さんが算数の時間わからないところを教えてくださいました。ありがとうございました。」など自分がしてもらったことに対して感謝をしたり、逆にだれに対しても分け隔て無く助けたりすることができてきており、協力して活動することが進んでできるようになってきている。また、その際に紹介する相手は男女を問わず、お互いに助け合いながら生活することができている。さらに2学期からは、「今日のよかったこと」で発表した内容を付箋に書き、道徳コーナーに掲示するようにした。互いの良い行動や助け合ったことを共有できるようになったことで、自分も積極的に友だちに関わり、助け合おうという意欲が高まってきている。しかし、中には自分の仲の良い友だちに対しては積極的に手助けできるが、あまり関わりのない友だちに対しては消極的になってしまう児童もおり、公正・公平に接するという道徳性について個人差がある。

そこで、本時の学習のねらいになっている内容に関してより実態を把握するため、アンケート調査を実施した。
〈実施日 平成24年9月11日 調査人数30名〉

1. いじめとは、どういうことだと思いますか。
 - ・一人の人を何人かで傷つけること。…8人
 - ・人の心や体を傷つけること…7人
 - ・人の嫌なことをすること…5人
 - ・特定の人を中傷すること。…1人
 - ・無視や仲間外れをすること…5人
 - ・人を侮辱すること…3人
 - ・差別をすること…1人

2. いじめについて、あなたはどのように思いますか。
 - ・よくないことだと思う。…6人
 - ・悪いこと…5人
 - ・なくしたい…2人
 - ・友だちとの関係もなくなってしまうので、よくないと思う。…2人
 - ・いじめた側もいじめられた側も、良い気持ちではないと思う。…2人
 - ・自分がされて嫌なことだから、人にもしないで欲しい…1人
 - ・当然いけないと思うし、許してはいけない…1人
 - ・やっではいけないこと…7人
 - ・この世からなくなってほしい…3人
 - ・いじめは嫌い…1人

3. あなたは、今までいじめられたことがありますか。
 - はい…5人
 - いいえ…25人

○「はい」と答えた人に聞きます。そのとき、どんな気持ちでしたか。

 - ・つらい、さびしい気持ちだった。
 - ・相手がこわい、もういやだと思った。
 - ・不安と不満がたくさんあった。
 - ・嫌な気持ちだし、なんで自分だけがやられているのかわからない。
 - ・嫌な気分、イライラした。

4. あなたは、今まで他の人がいじめられているのを見たこと、聞いたことはありますか。
 - はい…7人
 - いいえ…23人

○「はい」と答えた人に聞きます。そのとき、あなたはどうしましたか。

 - ・いじめられている友だちに声をかけた。
 - ・やらないほうがいいんじゃないの？と言った。
 - ・いじている人を止めた。先生に報告した。
 - ・大丈夫？と声をかけた。
 - ・怖くて動けなかった。
 - ・何もできなかった。…2人

5. あなたは、いじめをなくすためにはどのようなことが大切だと思いますか。
 - ・いじている子がいれば注意をする。…4人
 - ・友達やいろいろな人を大切に思い、いじている子をとめてあげればいい。…3人
 - ・いじめられている子を助けてあげる。…2人
 - ・みんなで仲良く、助け合う。…9人
 - ・いじめにつながる言葉や行動を考え、それをしないようにする。…3人
 - ・相手の気持ちを考えることが大切だと思う。…3人
 - ・優しい気持ちを持つ。…3人
 - ・みんなの長所を考える。…1人
 - ・いじめの原因を作らない。…1人

「アンケート結果からわかる児童の実態と、それを踏まえた指導上の工夫」は以下の通りである。

問1では、いじめに対する児童の認識を調査した。多くの児童が1人に対して複数で無視をしたり、傷つけたりすることであると考えているが、中には具体的にどういったことがいじめにつながるかが考えられていない児童もあり、今回の資料の中でのいじめの実態について押さえる必要がある。

問2では、いじめに対する児童の気持ちを調査した。児童はいじめに対して、いやなこと、やめてほしい、なくなってほしいといったマイナスのイメージを多くもっている。本時では、そういった児童のいじめに対するイメージを生かし、導入段階でいじめは許されないこと、資料前半でいじめられている明奈に対して私が声をかけている気持ちに共感することにつなげたい。

問3では、いじめに関する児童の経験について調査した。今までにいじめられたことのある児童は5人いることから、いじめは身の回りでも起きる可能性のあることをおさえ、自分たちの問題として考えるきっかけにしたい。また、その時の気持ちとして「つらい」、「悲しい」などの気持ちを取り上げ、いじめられた側の気持ちを真剣に考えるきっかけにしたい。

問4では、いじめを見たこと、聞いたことがあるかを調査し、その時の行動について調査した。いじめを見たことや聞いたことのある児童はクラスの7人おり、その時の行動としては「いじめた側に声をかけられた」、「いじめられている側に声をかけた」、「何もできなかった」の3つに分けられた。その中で、しっかりと声をかけ行動できた人がいるということとともに、何もできなかったという意見を取り上げ、いじめを知ったときに行動することの難しさを考えさせ、私の行動の重要性について考えるきっかけにしたい。

問5では、いじめをなくすためにどうすればよいかについての児童の意識を調査した。児童の中には、いじめている側やいじめられている側に声をかけ、行動することが大切であると理解している児童が多くいるが、一方で具体的にどのように行動すればよいかまで考えることができていない児童もあり、「仲良くする」、「助け合う」といった考えに止まっている児童もいる。本資料の学習を通じて、いじめを知ったとき、さらには不正に対してどのように行動することが重要であるか、より具体的に考えさせたい。

以上の調査結果から、児童はいじめに対して漠然としたマイナスイメージは持っているが、いじめにあったとき、あるいはいじめを知ったり見たりしたときにどのように行動すべきか、またいじめをなくすためにどのように行動したらよいかという点で具体的にイメージができていない。そこで本時の学習では、資料の中の私に共感させながら、明奈に対して私のとった行動を通じて、私の気持ちを考えさせ、いじめのない人間関係、さらにより明るいクラスにするにはどのような行動が大切かという点に気付かせたい。そして、自分の行動を振り返って、これからの日常生活の中で仲間とともに助け合って生活していこうという気持ちを育てたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公の私が、クラスメートの明奈に郁美たちが行っているいじめに対してとった行動を通じて、不正、いじめを許さない心を学ぶことができる資料である。主人公の私は、いじめを受けている明奈に対して積極的に声をかけ、周りの状況に関わらず公平に接していた。しかし、私自身が体育帽子を隠されるという事件があり、そこから私は明奈に声をかけるのをやめてしまう。そして数日間、明奈に声をかけない状態が続いていたが、明奈が一人である時に声をかける。それに対し、明奈は「あなたも郁美さんたちと同じよ」と言って去ってしまう。そしてその翌日、私は教室でクラスみんなの前で立ち上がり、自分の思いを伝える。主人公私の心の変化や、行動を捉えることで、いじめを許さない心の大切さを感じ取ることができる内容である。

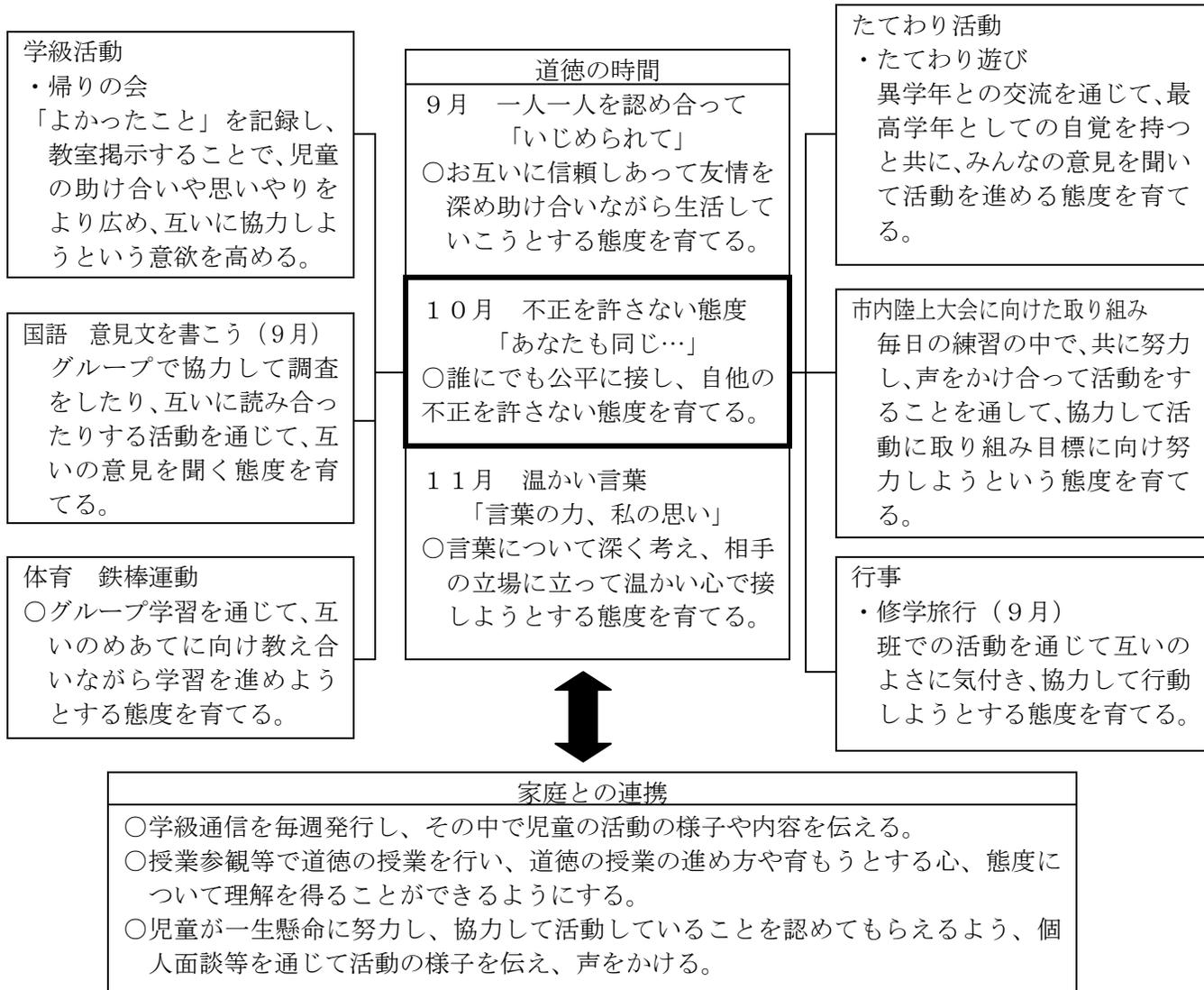
資料前半では、明奈が郁美たちにいじめられていること、それに対して私は進んで声をかけているということをおさえ、私の気持ちを捉えさせる。特に、クラスの他の子どもたちはいじめを知っているにも関わらず行動していないことも含め、私の気持ちを考えさせる。また、その後の体育帽子が隠される事件が起きてからの私の心情の変化につなげ、今までは明奈に対するいじめが他人事であった私に実際にいじめがふりかかり、変化した気持ちに共感させたい。

資料後半では、明奈に言われた「あなたも同じ…」という意味を考えながら、私の気持ちを捉えさせた

い。数日間声をかけなかったこと、周りを見てクラスの子がだれもないことを確認してから声をかけていることもおさえ、私に働いている自己防衛の気持ちを捉えさせた上で、「あなたも同じ…」という言葉の意味と、それを言われた私の気持ちを考えさせる。

そして最後の場面、私がクラスみんなの前で立ち上がり、思いを伝える場面では、いじめに対する自分の気持ちをはっきり伝えた私の気持ちに共感させ、いじめは許してはいけないという気持ち、不正を許さず、クラスをもっと前向きに明るくしていこうというねらいに迫っていきたい。

4 他の教育活動との関連



5 本時の学習活動

(1) ねらい

◎正義の実現に向け、誰にでも公平に接し、自他の不正を許さない態度を育てる。

(2) 展開

段階		学習活動 (主な発問)	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点	資料 時間
導入	気づく	1. いじめに関するアンケート調査の結果を見て、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめにあったことのある人がある。 ・ いじめを受けると悲しい気持ちになる。 ・ いじめを知っていても、何かしてあげることは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査について話し合い、いじめについて考えようとする意欲をもたせる。 ☆アンケートの結果を見て、児童一人一人が課題意識をもつことができたか。 	3分 調査結果
		2. 資料について知る。 ・ 登場人物、主人公、状況について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【登場人物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私（主人公） ・ 明奈 ・ 郁美たち ・ クラスメート <p>【条件、状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明奈はクラスでいじめられている。 ・ 私はその明奈によく声をかけている。 ・ いじめの中心になっているのは郁美たちで、クラスの中心的存在である。 ・ 他のクラスメートは何も言えないでいる。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・ カードや場面絵を用いて条件状況をおさえる。 	7分 資料 状況のまとめ 場面絵
展開	とらえる	・ 資料の判読を聞く。 3. 話題の整理と確認をする。 ・ 話し合いたいところを発表する。	・ 主人公の気持ちを感じ取りながら判読を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公の気持ちになって、線を引きながら判読を聞く。 ・ 「私」の立場になって考えさせ、児童と共に話合いの柱を立てる。 ☆資料の内容が捉えられたか。 	
		4. 主人公「私」の心の内を話し合う。 (1) 明奈のところへ行き、声をかけている「私」は、どんな気持ちだったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明奈がかわいそう。 ・ 自分だけでも声をかけよう。 ・ 自分は明奈の友達だ。 ・ いじめがいけないとはわかっているが、郁美には何も言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から進んで声をかけているということをおさえ、この状況で声をかける私の心の内を捉えさせる。 	27分 資料 場面絵
	深める	(2) 明奈のところへ行かなくなった「私」は、どんな気持ちだったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今度は自分がいじめられる。 ・ 明奈と同じになるのは嫌だ。 ・ 郁美たちにいじめられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がいじめがふりかかったことで、明奈に声をかけることができなくなった私の気持ちに共感させる。 ・ 声をかけなくなったことで、私 	

		(3) 明奈に「あなたも同じ…」と言われた私は、どんなことを考えたでしょうか。	<p>のが怖い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分はいじめられたくない。 ・助けてあげたのに。 ・明奈を無視したからだろうか。 ・明奈に悪いことをしてしまった。 ・私も郁美たちと同じことをしていた。 	<p>へのいじめはなくなったことをおさえる。</p> <p>☆自分にいじめがふりかかったことで、声をかけることができなくなってしまった私に共感できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明奈から言われた「あなたも同じ」という言葉の意味を考えさせる。 ・小グループでの話し合いを取り入れ、多くの児童が自分の考えを発表できるようにする。 <p>☆明奈の言葉を聞き、自分の行動を振り返って、自分の弱さに気づいていく私の心情を捉えることができたか。</p>	
	深める	(4) 「私」が自分の思いをはっきり言えたのは、どんな思いからでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは悪いことだから、やめさせたい。 ・このままでは明奈がかわいそう。 ・明奈の気持ちを知っているのに、黙っているのはいやだ。 ・郁美たちのためにも、いじめを止めたい。 ・このクラスをいじめのないクラスにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全員の前で自分の思いをはっきり伝えている私の心情を感じ取らせる。 ・②の柱から、自分がいじめられるかもしれないということを確認し、それでも行動した私の気持ちを考えさせるようする。 <p>☆クラス全員に向け自分の思いをはっきり伝えた私の心情を捉えることができたか。</p>	
	見つめる	5. 今日の授業で考えたことや感じたことをまとめ、自己を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分を振り返り、これからのことについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を通して、一人一人に自分の生活を見つめ直し、これからの自分について考えさせる。 	5分 カード
終末	あたためる	6. 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに戻り、クラスのみんなでいじめを許さない態度をもち、明るいクラスにしていこうという気持ちを高める。 	3分 調査結果

6 評価の観点

- ・主人公の気持ちになって考えることができたか。
- ・よりよい人間関係を築くために、自分の思いや周りの状況に左右されず、誰に対しても公平に接しようという気持ちを持つことができたか。

【発言・観察】

【発言・道徳プリント】

あなたも同じ…

明奈に進んで声をかける

明奈のところへは行かなくなった

言葉が何度も響いていた

明奈

私

明奈はクラスでいじめられている
私は明奈に進んで声をかけている
いじているのは郁美たち
↓クラスの中心的存在

明奈が進んで声をかける

- ・ かわいそう
- ・ 自分だけでも
- ・ 自分は友達でいたい

明奈のところへは行かなくなった

- ・ 自分がいじめられるのがいや
- ・ 明奈と同じようにいじめられる
- ・ 怖い

言葉が何度も響いていた

- ・ 自分も同じことをしていた
- ・ 自分もいじめられた
- ・ 仕方なかった
- ・ 自分も困っていた

「あなたも同じ…」

- ・ 自分も同じことをしていた
- ・ 私もいじめていた
- ・ 何てことをしたんだろう

自分の思いをみんなに伝えた

- ・ いじめはやっぱ許せない
- ・ 明奈を助けたい
- ・ このクラスをいじめのないクラスにしたい

絵

絵

絵

自分の体がカッと熱くなった

あなたも同じ…

資料分析表

資料名『あなたも同じ…』（彩の国の道徳(小学校高学年)埼玉県教育委員会発行)

【スタートの条件・状況】

私（主人公）のクラスメートの明奈は、物隠しをされたり悪口を言われたりしていじめを受けている。いじめているのは、クラスの中心的な存在である郁美たちである。クラスの中にはいじめを知っている子もいたが、郁美たちが中心的な存在であることから何も言えずにいる。私は、そんな明奈に対して一人で進んで声をかけている。

【話題につなげたい場面】

私がひとりである明奈のところに行き、進んで声をかける場面

【キーワード】

それでも、私は…
明奈に対するいじめを知っている子もいたけれど、何も言えないでいた。

【話合いの柱】

① 明奈のところへ行き、声をかけている私の気持ち

私の体育帽子がなくなった場面

それから私は、休み時間になっても、明奈のところには行かなくなった。
その後、私の持ち物がなくなることにはなかった。

② 明奈のところへ行かなくなった私の気持ち

うさぎ小屋にひとりである明奈に、私が声をかける場面

数日がたち、
周りを見たが、クラスの子はだれもいなかった。
「あなたも同じ…」という言葉が何度も響いていた。

③ 「あなたも郁美さんたちと同じよ」と言われたときの私の気持ち

私が教室で、自分の思いをみんなに伝える場面

それでも私は自分の思いをはっきりとみんなに伝えた。
私の全身はカッと熱くなった。

④ 私が自分の思いをはっきり言えたのは、どんな思いからでしょうか。

【ねらいとする人間像】 〈内容項目 4 - (2)〉

正義の実現に向け、だれにでも公平に接し、不正を許さない子